

CASBEE-建築(新築)2024年版
(仮称)精華町光台二丁目計画新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.0

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.2
Q1 室内環境			0.32		-	2.9
1 音環境		3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル	-	3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	-	3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能	-	3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音	-	3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		2.5	0.35	-	-	2.5
2.1 室温制御		3.3	0.50	-	-	
1 室温	-	3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能	Low-E複層ガラス	3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性	テナントオフィス等屋裏にて方位別かつベリメータ・インテリアにて系統分けされており、かつ冷暖フリーのマルチパッケージ型空調設備を採用	4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御	-	3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式	-	1.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.30	-	-	
1 昼光率	-	3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口	-	-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備	-	3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御	-	3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度	-	3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御	-	3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境		3.3	0.25	-	-	3.3
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	-	3.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気		3.3	0.30	-	-	
1 換気量	居室は全て30m ³ /h/人以上の換気量を確保。	4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能	-	3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮	-	3.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視	-	3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	ビル全体が禁煙となっている。	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.9
1 機能性		3.4	0.40	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性	1160m ² の執務スペースを提供	4.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	執務スペースはOAフロア完備。OAコンセント60VA/m ²	4.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画	-	3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	執務スペースは天井高2.7mとし、ガラスCWIに面して配置。	4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	約70m ² のリフレッシュスペース(ラウンジ)を提供	4.0	0.33	-	-	
3 内装計画	-	3.0	0.33	3.0	-	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	-	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		4.4	0.30	-	-	4.4
2.1 耐震・免震・制震・制振		5.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	損傷制御設計が行われている	5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	基礎免震構造の採用	5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.5	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔	-	3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出部を含む全ての部位にてガルバリウム鋼板製ダクトを採用	4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:SGP-VA、排水:DVLP+VP	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		4.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	データセンター系統は機器がN+1、N+2の冗長構成を確保、配管系はループ配管による。耐震クラスは全てSクラスとし、データホール関連の空調・換気は全て非常用発電機によるバックアップを装備	5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	-	3.0	0.20	-	-	
3 電気設備	非常用発電機、UPS、電源2N構成。電気室は1階、発電機は屋上配置。	5.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	全て耐震クラスS	5.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	4方向からの引込、MDF室・サーバ室を1階に配置、ケーブルTV引込、UPS設備あり	5.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性		4.2	0.30	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり		4.2	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高は4.5m~6.5mとゆとりのある計画とした	5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ	-	3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり	執務スペースで4,900N/m ² の床積載荷重	5.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性		3.6	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	

	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	機器更新時にも建物機能を維持できる搬出入計画	5.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	非常用発電機・空冷チラー等主要設備は全てバックアップ機器を実装	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)								
1		生物環境の保全と創出	—	3.0	0.30	-	-	3.0
2		まちなみ・景観への配慮	—	3.0	0.40	-	-	3.0
3		地域性・アメニティへの配慮	—	3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	敷地外周部にメッシュフェンスを設置して防犯上の死角を作らない	2.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	敷地面積の30%を緑化	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
1		建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.92	3.7	0.20	-	-	3.7
2		自然エネルギー利用(直接利用)	—	3.0	0.10	-	-	3.0
3		設備システムの高効率化	BEI=0.55	3.5	0.50	-	-	3.5
		集合住宅以外の評価	—	3.5	1.00	-	-	
		集合住宅の評価	—	-	-	-	-	
4		効率的運用に向けた取組み	—	3.0	0.20	-	-	3.0
		集合住宅以外の評価	—	3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.40	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	0.40	-	-	
	4.3	非化石エネルギーの導入の拡大	—	3.0	0.10	-	-	
	4.4	コミショニングの推進	—	3.0	0.10	-	-	
		集合住宅の評価	—	-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル								
1		水資源保護	—	3.4	0.20	-	-	2.9
	1.1	節水	自動水栓(参考型番:TENA125AW)吐水流量2L/分を採用	4.0	0.40	-	-	3.4
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	—	3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2		非再生性資源の使用量削減	—	2.5	0.60	-	-	2.5
	2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	1.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	2.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	—	3.0	0.20	-	-	
3		汚染物質含有材料の使用回避	—	3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避	—	4.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	N2	4.0	0.33	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	GWPが1の断熱材を使用	5.0	0.33	-	-	
	3	冷媒	R134a	3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境								
1		地球温暖化への配慮	WLC排出率が参照値に対して72%	4.1	0.33	-	-	4.1
2		地域環境への配慮	—	3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1	大気汚染防止	—	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制	—	3.2	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	適切な量の駐車場、駐輪場を計画し、専用の荷捌き駐車場も設置。	4.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3		周辺環境への配慮	—	3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止	—	3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	0.33	-	-	
	2	振動	—	3.0	0.33	-	-	
	3	悪臭	—	3.0	0.33	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制	—	3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	1.0	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制	—	3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	—	3.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2024年版

(仮称)精華町光台二丁目計画新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0	-	○	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0	-	-	○	-	○	○	-	-	○	-	-	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	3.0	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	4.0	3.0	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	4.0	-	-	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															

1	生物資源の保全と創出	7.0		-	-	2.0	1.0	-	1.0	1.0	-	1.0	1.0	-		
2	まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-					
3.2	敷地内温熱環境の向上	13.0		2.0	1.0	1.0	3.0	2.0	-	1.0	2.0	1.0				
LR1 エネルギー																
2	自然エネルギー利用(直接利用)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.1.4	コミッションングの推進	-		○	-	-	-	-								
LR2 資源・マテリアル																
1.2.1	雨水利用システム導入の有無															
1.2.2	雑排水等再利用システム導入の有無			○	○	-	-	-	-	-	-					
2.1	材料使用量の削減	2.0		-	2.0	-										
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	-			-	-	-									
3.1	有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境																
2.2	温熱環境悪化の改善	6.0		1.0	1.0	-	-	1.0	-	-	1.0	1.0	1.0			
2.3.3	交通負荷抑制	3.0		1.0	-	1.0	1.0	-	-							
2.3.4	廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	-	-		1.0	-						
3.2.2	砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) 0.4U値(W/m²K) 窓システム 1.6 屋根 0.7 外壁 0.9 床 0.7住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -

屋光率 0.0%

自然換気有効開口面積率 0.0%

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収容性

執務スペース 11.6㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 50.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 2.7m m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 69.68㎡ レストスペース 0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 0 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 4.5-6.5 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 0.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 4900 N/m²

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 64% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 45% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 30% 舗装面積率 11%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m 0.92 断熱等性能等級 0 相当

2 自然エネルギー利用(直接利用)

影響範囲の割合 0.0% 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kWh

3 設備システムの高効率化

BEI/BEI_m 再エネ有 0.55 無 0.55 オフサイト再エネ有 - ○○GJ/年

非住宅部分

一次エネ削減率 再エネ有 ##### 無 #####

集合住宅

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 0

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1430

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 #DIV/0! 隣接間隔指標Rw -

地表面対策面積率 0.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 #DIV/0!

見付面積Sb m² 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 0 m 基準高さHb 0 m緑地 m² 水面 m² 保水性対策面 m² 高反射対策面 m² 再帰性反射対策面 m²